映画 空母いぶき　～空母いぶき建造までの記録～

秩父快急

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

映画　空母いぶきより。２０ＸＸ年。東アジアの軍事バランスは朝鮮半島での戦争が再発したことにより、平静を保っていた状態から一転。緊張が上がっていた。日本政府は以前から計画していたペガソス計画。自衛隊初の空母建造という新たな区切りを迎えつつあった。この話は空母いぶきが建造されるまでの期間。秋津艦長や新波副長を初めとした、空母いぶき建造前の話である。（原作とは違い。映画版の話です。）

目次

序章 ―― 1
ペガソス計画 ―― 3
波間群島　初島沖　衝突事件 ―― 8
磯子～垂水内閣発足～ ―― 13

序章

そう遠くない未来。東アジアでの軍拡競争は激しさを増していた。中でも、日本周辺国での軍拡競争は一段と激しさを増し。日本の領海や領空への不法な侵犯行為が激化していた。これを踏まえ、政府及び防衛省内部では　いずも型護衛艦　をベースとした新たな護衛艦建造計画。通称、ペガソス計画が極秘に進行していた。

２０ＸＸ年４月１日未明

東アジアの中で一番緊張が高まり、いつ軍事衝突をしてもおかしくない状況下であった。韓国と北朝鮮の軍事境界線地帯。通称３８度線にて北朝鮮から逃走してきた北朝鮮兵を韓国軍が救助しようとした際。

ダダダダダダダダ!!!

突如、北朝鮮側から発砲。これに応戦し韓国軍が機関砲にて攻撃を開始した。これをきっかけに停戦状態だった韓国と北朝鮮両国は再び戦争状態に突入した。日本政府は早朝、緊急閣僚会議を行い。在韓邦人救出のために航空自衛隊に対して輸送機による移送を開始した。また、米国は東アジアの軍拡競争について深く関わりは持たないと発表。在韓米国人と在韓邦人を共同で救出し、在韓米軍の即時撤収準備等。朝鮮半島有事に関わらない姿勢を見せた。これに、韓国大統領は米国に対し激怒。「同盟国なのに有事で動かない米軍はただの武器庫だ！」等と言いがかりを米国に言い。在韓米軍基地及び関連施設を襲撃し兵器強奪を開始。これにより、在韓米軍に多数の被害者が出たことにより。米国は韓国から完全撤退を指示。米韓友好条約の破棄及び同盟国宣言破棄を宣言。米軍は韓国軍に対し戦闘を行いながら一時日本の各米国基地へ撤退した。

その後朝鮮半島での戦闘は３ヶ月ほど続き、世界が予想だにしない形で終戦を迎えた。日頃より不満が溜まっていた韓国軍が韓国政府に対し軍事クーデターを起こし。かたや、北朝鮮国内でも北朝鮮陸軍と空軍がクーデターを行うという。戦争当事国両国が同時に、政府に対して軍事クーデターを発生させるという史上稀に見ない形で終結

した。朝鮮半島に平穏が訪れたかと思われたのだが、ここからが問題だった。北朝鮮と韓国が事実上の崩壊となり。両国の国民が合同で新たな独立国家、東亜連邦を樹立。その形態は旧ソ連系と米国系の武器。両方の武器や特性を持ち、過激な軍事思想を持ち、日本海から東シナ海…。遥か台湾の沖合いまで軍事戦力を拡大。中国　ロシア　米国　が共に手を出せない国となり。日本にとって安全保障上の問題となり。関係各国が迂闊に手を出せない危険な軍事国家が誕生してしまったのだ。

ペガソス計画

２０１Ｘ年６月１５日　航空自衛隊　百里基地

キイイイイインンンンン

Ｆ１５Ｊ戦闘機の甲高いエンジン音が空に響き渡る。

「ふぅ…。」

一人のパイロットスーツを着た男が休憩室の椅子に足を組み、缶コーヒーを飲みながで座っている。

「よう秋津。お前また演習で教官機落としたんだってな？」

と、同期の仲間から声をかけられる。

「いや、俺は何もしてないさ。ただ、訓練通りにやっただけ。」

「また、秋津流撃墜論が出たな。」と、同じ部隊の仲間から称える声が出た。すると。

「秋津竜太二佐。至急、司令官室へお越しください。」

と、放送が流れた。基地の司令官に呼び出されるなんてよほどの事がない限り、まずあり得ない。

「秋津竜太二佐。ただいま参りました！」

と、司令官室の前で名前を言う。すると、珍しく司令官直々に扉を開けて秋津を中へ入れた。

「ご用件はなんでしょうか？」

と、秋津が尋ねる。司令官は。

「今日の演習でも教官機を撃墜。小松、三沢で連続撃墜数を大幅に塗り替え。この百里に来てから、これで教官機連続撃墜通算１００回か。その上、被弾経験は戦闘機パイロットになってから最初の数ヶ月のみ、３年前から一切被弾判定無しか。防衛省の連中が君を欲しがる理由が分かるよ。」

「は？」

秋津は挙動不審な基地司令官に対して疑問を持っていた。

「秋津。お前、空母乗ってみたいか？」

「…空母。…ですか？」

「ああ。空母だ。」

と、一瞬。部屋の中が静かになった。
「空母ですか…。しかし、我が日本は空母は無いはずでは。」
「今、垂水防衛大臣の下で水面下であるが。自衛隊初の空母の建造計画が進んでいる。」
「空母となると。運用は海自と空自の共同になりますよね？」
「さすがだ。秋津、詳しい説明をしなくとも大丈夫そうだな。」
と、窓の外を眺めていた司令官が振り返り…。
「秋津竜太二等空佐、只今を持って防衛省。市ヶ谷勤務を命ず。」
６月２０日０８３０　防衛省
秋津は百里基地からの移動で防衛省　市ヶ谷勤務となった。だが空母計画参加という指示のみで、実際には市ヶ谷に呼ばれただけの身であり。何が起こるのか疑問に思っていた。防衛省のロビーの椅子に座り待機していると。海自の制服を着た人物が近寄ってきた。
「秋津？お前、秋津じゃないか？」
ふと見上げると。防大同期の新波俊哉　が立っていた。
「あれ？新波さん。なぜここに？」
「相変わらず○○さん付けか。変わらないなお前は。それよりお前こそ何故ここに？」
と、話しかけてきた。話を聞くと、新波も秋津と同じように呼び出されて来たのだ。
新波歳也　三等海佐
彼は海上自衛隊呉基地にて、護衛艦　あきかぜ　の航海長をしていた。護衛艦　あきかぜ　は戦後２代目ＤＤＨ。哨戒ヘリを３機搭載できる大型のヘリ搭載型護衛艦だ。そんな二人は詳細をほぼ知らされずに市ヶ谷に呼び出されたのだった。
防衛省　地下第二会議室
秋津達が会議室入ると統合幕僚長を始めとして、航空自衛隊と海上自衛隊の幕僚長。などの人員が集まっていた。
「あなた方を市ヶ谷に呼んだのは、我が日本。自衛隊初の空母の幹部になるということだ。」
と、統合幕僚長の話で始まった会議。海上自衛隊の幕僚長がモニ

ターに３Ｄモデルの、とある護衛艦の図を表示した。
「先の大戦で旧日本海軍が作り上げた東アジア初の航空母艦　鳳翔。そこから始まった我が国の航空母艦の歴史。正規空母　赤城　加賀　蒼龍　飛龍　翔鶴　瑞鶴…。先の大戦では数多くの大型空母を日本は作り上げてきた。そして今、我が国を取り巻く状況は危機に瀕している　…。」
「…東亜連邦軍。」
と、統合幕僚長の言葉に秋津が反応した。
「そうだ。君たちも知っているだろう…。丁度一ヶ月前に操業中の中国国籍の漁船が、東亜連邦の艦船に撃沈させられたのを…。」
４月２８日　上海の北東　２５０km
普段通り上海沖で操業していた中国のはえ縄漁船３隻が東亜連邦艦船からの突然の発砲により２隻が撃沈。１隻は拿捕されたのだ。中国政府は抗議を考えたが、朝鮮半島北部は石炭の採石地であり。今後の交流面も考え抗議は断念した。中国という大国が抗議をしてこなかったことに味をしめた東亜連邦は台湾の北西３５０km地点にある。かつて中国海軍が軍事基地化していた島を占領。軍事基地は使われて無かった為にあっさりと占領されてしまったのだ。これにより東シナ海を通行する民間船舶への海賊行為が行われ始め、海上自衛隊の護衛艦が海賊対処行動として派遣されることになった。
「政府は東亜連邦が日本の波間群島や尖閣諸島…。そして、沖縄を狙っていると。」
「その通りだ。」
新波の質問に統合幕僚長は答えた。
「そこで、このペガソス計画。今度竣工する　航空機搭載護衛艦　いぶき　の改良点を見つけてきてほしい。既に、米海軍に手配は取ってある。来週からハワイで行われるリムパック総合演習で君たちには米海軍の空母　ロナルド・レーガン　にて演習の視察をしてもらいたい。」
統合幕僚長が話終えた直後。部屋に米海軍の服を着た白髪の初老の男性が入ってきた。

「改めて紹介しよう。こちらは米海軍のジョン・タナカ中将だ。今は米海軍厚木基地所属で後任の米海軍幹部生育成を行っているが。空母ジョージ・ワシントン　の初代艦長で、なおかつ日系アメリカ人で初めての米海軍空母の艦長を勤めた方だ。今回、米国から同盟国として日本の空母建造に携わっている。」
「初めまして。Ｍｒ．秋津。Ｍｒ．新波。米海軍の空母の案内は私が行います。よろしくお願いします。」
と、秋津と新波に熱い握手をした。一通りの説明が終わり、最後に統合幕僚長が秋津と新波に任命書を手渡した。そこには
「日本国自衛隊　空母建造　ペガソス計画に伴う　米海軍での研修及び調査を命ず。　防衛大臣　垂水慶一郎」と。
７月１０日
キィイイイインンンン
米海軍の空母　ロナルド・レーガン　からＦ３５Ｂ戦闘機が勢いよく離陸していく。
ここは、米国ハワイ島の沖合い。日米間合同の軍事演習が行われていた。秋津と新波は自衛隊の護衛艦ではなく。米海軍の空母に乗っている。
「さすが米軍だ…。」
空母の運用を生で見た新波には驚きの連続だった。まもなく完成する　空母　いぶき　と違い機関が原子力であることは違うが。風や波、そして潮の流れを計算し最適なコースになるよう操艦する熟練の乗組員。そして、航空管制とＣＩＣから入る敵の動き。そして、甲板上での誘導員達の無駄の無い動き等。今までの　海上自衛隊が持っている　いずも型　ひゅうが型　とは訳が違うと言うことを改めて実感させられた。一方の秋津は、海上自衛隊で研修を受けたとはいえ。初めての海上での大規模演習。しかも空母の離着艦を見て何やら掴んだかの様子で、子供が新しい事に目を輝かせるような瞳で米軍の演習を見ていた。
空母　ロナルド・レーガン　格納庫
「どうですか?何か掴めましたか?」と、格納庫内に駐機してるＦ３５

Ｂのコックピットで瞑想してる秋津にタナカ中将が尋ねる。
「ええ。おかげさまで。」
と、何かを悟った顔をしながらコックピットから降りてくる。
「あなたは変わった人だ。」
と、タナカ中将が話す。
「私はもともと、米空軍のパイロットでした。湾岸戦争の時の前線で沢山の地上の敵を殺した。仲間も多く無くした。そのあとは本土に戻り、後輩達の指導をしてきた。そして、空母の艦長になった。」
と、最新鋭のＦ３５Ｂの機体を触りながら話す。
「戦闘機乗りは死ぬときはいつも一人だ。私は運が良かっただけに過ぎない。日系アメリカ人で初めての空母の艦長になったとはいえ。戦闘機を見るといつも不思議な感覚に包まれる。」
「その感覚とは…？」
と、秋津が尋ねる。
「私の父は、大戦中に日本の零戦の調査をしててね。なぜ、あそこまで出力が高いにも関わらず。軽量で性能のいい戦闘機が出来てるか不思議だった。でも、父は怒っていた。大戦末期、カミカゼという体当たりをあの機体でやったことをね。」
秋津は思った。タナカ中将が一番に教えたいこと。それは
「戦闘機乗りは常に一人だが、必ず帰るべき場所がある。決して、自分の命を犠牲にしないこと。そして、生きて帰ることだと。」

波間群島　初島沖　衝突事件

ここは　沖縄県宮古島南東１７０㎞にある波間群島の中心　初島。周辺では過去に船舶の遭難事故があった影響で国際法に基づき船舶の緊急避難施設と緊急ヘリポート。灯台が設置されている。

［海上保安庁　初島灯台］

と、掲げられた建物には常時８名の海上保安庁の隊員達が１週間ごとに交代で勤務している。事件は秋津達が米海軍での演習に参加していた頃に遡る。

７月１３日　０６３０　天候　晴　西風

この日も海保隊員達は初島周辺での海上交通の安全確保や領海侵犯する不審な船舶がないか監視していた。

ビー！ビー！ビー！

東の空が明るくなり日の出を迎え、食堂からお米の炊ける香りが管制室にも漂うなかで。衛星回線の電話が鳴った。

「ーこちら那覇第十一。初島北西９０㎞に不審船発見との民間船舶より報告あり。船種は中型船舶。確認を求めます。」

と、那覇の第十一管区本部から連絡が入った。そして、那覇港から巡視艇りゅうきゅう　と　巡視艇　くだか　が現場海域へ急行した。また、近くで警戒任務に当たっていた海上自衛隊の護衛艦　あきづき　と　護衛艦あしたか　も現場に進路を向けた。

０９４５　初島　北西　８０㎞

先行して向かっていた海上保安庁の巡視艇　りゅうきゅう　と巡視艇　くだか　は不審船を発見。追跡に入った。けたたましいサイレンと共に日本語　英語　韓国語　中国語　で停船命令を出しながら追跡する。後ろからは海上自衛隊の護衛艦あしたか　と　護衛艦あきづき　が距離を保ちつつ追跡する。

１０３０　護衛艦あしたか　艦橋

「艦長、目標は一隻ですが…。中国か東亜の船舶と見て間違いないでしょうか？」

と、副長が艦長に声をかける。

「まだ、どこの船か分からんから。様子見だろうけど…。この辺りで海賊行為をしてる東亜の連中かも知れんなぁ…。」
と、艦長席に座っている男。彼は護衛艦　あしたか　艦長　涌井継治一等海佐だ。護衛艦あしたかは米国の技術に日本での運用力を備えた第二世代のイージス護衛艦だ。対地攻撃能力を持った護衛艦はこの　あしたか　が初めてである。
１１０５　遂に海上保安庁の巡視艇　二隻が不審船の強制停船を試み、不審船を左右から挟もうとした。その時であった。
「いかん！不審船から離れろ!!!」
巡視艇くだか　の艦長が叫んだ。不審船から火炎瓶が投げられたのだ。　数本の火炎瓶が投げられそのうちの２本が前甲板に当たり黒煙を上げる。その上、不審船が体当たりしてきたのだ。
「ん？…艦長！海保の巡視艇から煙が!!!」
と、あしたか　の見張員が叫んだ。涌井は慌てて双眼鏡で見ると、確かに海保巡視艇一隻から黒煙が上がっているのが見えた。そして、巡視艇りゅうきゅう　から不審船の前方へ向けて警告射撃が行われ水柱が上がっていた。
（これは、我々の出番があるかもしれない…。）
と、考えた時。事態は更に悪化の一歩を進めた。不審船が向かっている方向。１５０km先に東亜連邦の空母が居ることが、パトロール中の航空自衛隊の哨戒機の連絡により判明したのだ。
「これは…。良くない状況だな。東亜の空母が近くに来てるとは。海保の巡視艇に無線を繋いでくれ。」
涌井は指揮を執っている海保の巡視艇　りゅうきゅう　に連絡を入れた。
「あと１０分…。」
東亜連邦の空母が居るということは…。不審船を捕まえれば必ず戦闘機を上げるはず。ここでの戦闘は何としても避けねば。涌井はこう思った。東亜連邦の軍が出て来た場合。我々だけで判断できなくなると。
海保巡視艇　りゅうきゅうは不審船の左前方へ回り込み不審船の

進路を変えるコースに出た。その時だった。
ガァァアアンンンン!!!!
大きな音が東シナ海に響き渡った。直進しようとした不審船が回り込んできた巡視艇りゅうきゅう　の右艦首付近に激突したのだ。不審船より大きい巡視艇りゅうきゅう　だが艦首先端付近が折れ曲がった。一方の不審船は艦首の一部が吹き飛び、エンジンにダメージを受けたのか速力が下がった。
「さすが海保だ。ダメージを受けつつも不審船を沈めずに向きを変えた！」
巡視艇りゅうきゅう　の体当たりにより、不審船は進路を南西へ向けた。しかし。
「艦長！　東亜の空母から何か出ました!!」
「なんだと!?」
護衛艦あしたか　に緊張が走る！東亜連邦の空母から何かしらの飛行物体が出たのだ。
「通信員！巡視艇に連絡を！」
「ハッ！」
涌井は海保巡視艇に緊急連絡を入れた。そして、航空自衛隊の哨戒機により接近しているのは東亜連邦の戦闘機だと判明した。
１１２０　護衛艦あしたか　艦橋
「ＣＩＣ艦橋！目標、東亜連邦の戦闘機は当海域到達まであと１０分！」
と、ＣＩＣから情報が入る。
「艦長。迎撃準備を！」
と、副長が話す。だが、涌井は…。
「副長。そのような事をすれば、直ちに戦争状態になる。それに向かってきてるのは１機のみだ。」
空自哨戒機及び護衛艦あしたか　のレーダーには１つの機影しか映っていなかった。そして、目の前では甲板での消火活動を終えた海保巡視艇　くだか　と巡視艇りゅうきゅう　がもう一度挟み込みを行おうとしていた。だが。

ダダダダダダダダ
不審船からサブマシンガンのものと見られる発砲が確認され完全に検挙しなくてはならない状況になっていた。
「艦長！　まもなく敵機。視認距離に入ります。」
キィイイイインンンン
甲高い音を上げ東亜連邦の戦闘機　ＭＧ―３５が接近してきた。涌井は直ちに海保巡視艇に対し、不審船から離れるように指示した。
キィイイイインンンン
護衛艦あきづきのすぐ真横を低空で通過した東亜連邦のＭＧ―３５。海保巡視艇の上空を、まるで巡視艇を追い払うかのように旋回する。海保の巡視艇二隻は最大出力で不審船から離れた。そして…。
「艦長！敵機がこっちに向かってきます!!!」
ＭＧ―３５は　護衛艦あしたか　に向けて飛んできた。ここで撃ったら戦争になる。誰も撃つはずは無いだろう。涌井をはじめとする　護衛艦あしたか　の乗組員はそう思っていた。だが、現実は違った。
「敵機ミサイル発射！本艦到達まで１５秒!!!!!」
（撃ちやがった!!!）
「レーダー照射は!?」
「ありません!!!」
「こいつは当たらん!!!威嚇だ!!!!」
涌井が叫んだ直後。護衛艦あしたか　の前方にミサイルは着弾。爆発した。大量の水しぶきを浴びる護衛艦あしたか。
艦内は一瞬死を覚悟したかのように静寂に包まれた。
「…次はないぞ。か…。」
東亜連邦のＭＧ―３５は海保巡視艇二隻に対しては前方に機関砲による警告射撃を実施。
「くそっ！ここはお前らの海じゃねぇ!!!日本の海だ！」
巡視艇りゅうきゅう　の艦長は叫んだ!!!!
１１４５　内閣府危機管理センター　官邸連絡室
「護衛艦と海保の巡視艇が威嚇射撃を受けた!?」

「総理！ここは出るべきです！自衛隊の出動を！…総理！」
「いや、海保と海自には撤退を指示します。」
危機管理センターの一回り大きな椅子に座る男性が声を出した。内閣総理大臣　長峰　行夫　だ。
「しかし総理！それでは我々が威嚇だけで引いたと世界の恥さらしに！」
内閣の国会議員が声を荒あげる。
「今このタイミングで戦争になったら…。日本は取り返しの付かない被害を受けるだろう。」
「…!!!」
１２３０　日本政府は海自と海保に対して撤退を指示。巡視艇りゅうきゅう　は救命イカダに緊急用の食料と水を搭載して投下。海上自衛隊の保護の下で当海域を離脱した。
その日の夕方。日本政府は緊急の記者会見を実施。国籍不明の不審船追跡事案及び東亜連邦航空機からの威嚇射撃に対して発表。その日の夜の東京は普段通りの輝きを見せながらも…。スーパーやコンビニからは備蓄食品が無くなるという。異例の事態が発生した。まるで何かに怯えるかのように…。

磯子～垂水内閣発足～

「久々の日本か。」
　７月２５日　真夏の強い日差しの中。ハワイ沖で演習を行っていた艦隊がここ神奈川県横須賀市にある。海上自衛隊横須賀地方総監部に戻ってきた。護衛艦　いずも　から秋津と新波が荷物を持ち制服姿で降りてくる。
　横須賀地方総監部　司令室
「失礼します。」
　二人は横須賀の基地司令に挨拶に伺った。すると、近くの磯子で建造中の護衛艦の視察を指示され。基地の車で磯子の造船所へ向かった。
　磯子区　造船所
「これが…。」
　新波の目に飛び込んできたのは、いずも型のような大きな船体に側面の２つのエレベーター。そして、初めて採用されたスキージャンプ方式の甲板。
　今までの護衛艦とは違う。世界を変えてしまうかのような気配を感じた。ドックの周りをぐるっと巡るように目隠しが施される姿は、かつての戦艦大和を彷彿とさせた。
「あぁ、こちらでしたか。」
　と、初老の男性が声をかけてきた。
「はじめまして。工場長の永山です。いやぁ、うちのドックで空母を作ることになるなんて夢にも思ってませんでしたよ。」
　と、気さくに話しかけてきた。すると、秋津が。
「工場長、進水式の予定は？」
「はい。今の予定では今年の１０月中旬を予定しておりますが。」
　と、メモを見ながら工場長が話すが…。
「一ヶ月…。いや、半月でも早めてくれないか？」
　秋津がある一言を発した。

「一ヶ月…ですか。」
唖然とする工場長。
「あなたも知っているはずだ。先日、波間群島で東亜の空母機動部隊と。我が海上自衛隊が一触即発状態に陥ったことを…。」
先日の波間群島での武力衝突寸前の事件は、日本の国防に対しての不安の声が上がるだけでなく。周辺海域を航行する日本やアメリカ、ヨーロッパ各国の民間船を管理する船舶運営団体からの非難の声。そして、経済面から政府への不信感もあって。日本円から安定しているドルへの売り注文が相次ぎ。日本の国債価格は戦後最悪の数値まで陥った。また、Ｔｗｉｔｔｅｒをはじめとするネット上には。日本と東亜連邦の武力衝突の危機を感じさせる投稿が相次ぎ。身柄引き渡しと現場海域からの離脱を決めた日本政府に対して、弱腰姿勢であると台湾やインドネシア等の東南アジア諸国から不安視する声明が相次いだ。そして、建造中の護衛艦　いぶき　の視察を終えた秋津達は市ヶ谷へ向かった。
７月３０日　内閣総理大臣　長峰　行夫　は今回の事件をきっかけに、責任を取り。長峰内閣は総辞職及び衆参両院解散総選挙を決定。そして残暑厳しい９月１８日。新たに内閣総理大臣に任命されたのは、長峰内閣で防衛大臣を勤めた　垂水　慶一郎　であった。
首相官邸　総理大臣執務室
「垂水、いよいよ総理の座を取ったな。」
と、小太りの男が話してくる。アジア大洋事務次官の沢崎　勇作だ。この二人、実は大学の先輩後輩で。垂水は山口県議会出身。一方の沢崎は外務省幹部組という経験がある。
「なぁ、沢崎。この東京の明かり、きれいだと思わないか？」
と、窓の外を見つめながら垂水が呟く。
「ああ。東京はきれいだなぁ。」
と、沢崎が話す。だが、垂水からの返事は意外なものだった。
「この数百万の明かりの下で、一つ一つ国民の生活があり。皆、生きている。内閣総理大臣兼…。自衛隊最高責任者として、この国を護りきることができると思うか？」と、垂水は話す。

「何を言い出すと思えば…。我が国初の自衛隊空母建造計画の最高責任者はあんたじゃないか。」
「まぁな。だが、今となっては開けてはいけぬ。パンドラの箱のような気がしてな。」
と、両手を微かに震わせながら垂水が話す。
「…あんたが、始めた空母建造計画を今さら白紙にするのか？　それとも、この前の波間の事か。」
と、沢崎は椅子に座りつつお茶を飲みながら話す。すると、垂水は振り返り。
「沢崎、やっぱりそう言うか。確かに、この前の事件は引っ掛かってる。もしかしたら近く、東亜の連中と軍事衝突が起きるかもしれない。お前は、外務省勤務でアジアの状況を知っているだろう。だから、俺から頼みたい。東亜連邦の事を調べてほしい。」
と、垂水は深く頭を下げた。
「そんなこと、言われなくてもとっくにやってますよ。垂水さん。頭を上げてください。」
沢崎は垂水を励ます。
「すまんな。つい、気が動転して。俺も強くならなくちゃいけないな。この国の代表である内閣総理大臣として。そして、この国を護る陸海空全自衛隊の最高責任者として…。」
垂水は部屋に飾ってある日本の国旗。日の丸を見て決意した。